

今さら聞けない#95・「シンプル イズ ベスト」

1. 故船井先生の教え

右掲は、故船井幸雄先生の「本物の4条件」です。例えば、何事もシンプルな姿・形がベストです。よく「結論から話せ」と言いますが、物事に迷いがなければ「結論」があり、それを「行動」に移せるのです。つまり、「迷い」が邪魔をするのです。「結論」が決まれば道は開けて解決に向かうのです。しかし、「結論」がないまま、堂々巡りすることが多いのです。

改善の言葉に「3分で結論が出ない時は現場に行け」があります。議論ばかりでは何も解決しないのです。現場で困っていることを解決することが第一歩なのです。少し表現が違いますが「山に行く通りもの登山道がある」と今西錦司先生が話され、事前に天候や危険を調べるのは構わないが、どの道を選んでも登り切る覚悟が必要だと教えてくださったのを覚えています。私は船井総研の客員経営コンサルタント養成学校で学びましたが、「一番商品」づくりに困ったのです。会社を興す心算で社名を「エー・エム・アイ」として「AMI」はフランス語で「仲間」を意味しており、AMIはAdvanced Management with Information(情報で先進的経営)の頭文字から取りシンプルにネーミング出来たのです。

そして、その「結論」から成果が出て来るが「卓越した効能」を発揮してこそ「本物」なのです。よく「夢を持って」と言いますが、それを実現するには一歩進む事から始まるのです。「シンプル」なイメージなら目の前の障害を乗り越える勇気を与えてくれて「信念」となっていくまします。さらに、障害を乗り越える度に「自信」が強固になって「オーラ」を発揮するようになるので、周囲にも良い影響を与えて「希望」の輪が出来るのです。このようになるには身の丈の経済性がポイントであり、ムリがなければ副作用も出ないのです。

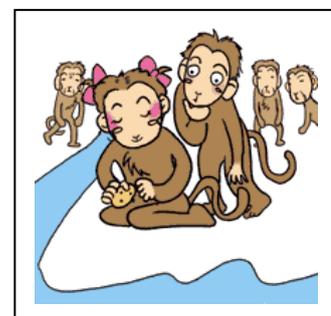
本物の4条件

1. シンプル
2. 卓越した効能
3. 経済性
4. 副作用レス

by 船井先生

2. AIが登場

右掲は船井先生の著書「百匹目の猿」に基づいてイラスト化した物です。「芋を海水で洗うと美味しい」ことを発見した若いメス猿が繰り返しているのを見た若いオス猿が真似るようになり、「芋洗い」が群れに広まったという話です。つまり、イモを「汽水域」(海辺の河口あたり)で洗うと適度な塩味になり美味しいというシンプルな動作と効能がマッチしているのです。これが複雑な手順や操作ならば、群れに広がることはないのです。



同じような事がAIにも言えます。当初は複雑そうに思えたが、日常会話的に質問を投げかけると回答が返ってきて、さらに深堀しようと思えば出来ることが分かり、今や小学生でも学校で分からなかったことを自宅などでAI学習して理解するようになってきているとの事です。この延長線上で高校も通信制を選択しても単位が取れて理解度が深まるので東大に合格するようになってきているとの事です。学校へ行く時間が省かれるし、オンライン授業なので好きな時間に受講して単位がとれ、さらに、その場でAI学習して深堀できるとのことです。

シンプルな問いかけで回答が返り、さらに深堀できるという効能の両面で広く一般化しつつあります。例えば、複雑そうな課題にも深堀すると解決手順まで導かれ、誰でも一歩踏み出せるソリューションを提示してくれる時代です。この提示されたソリューションを実行するか否かだけが分岐点になります。「伴走型」と言いますが、一歩踏み出して課題が出る度に問合せで個別の解決策を出してくれるそうです。例えば、ある課題のシステムを作る場合、どんな方法が良いかと尋ねて、その解答からやり易い物を選んで実行の援助を得ながら進める時代になっているとの事です。ノーコードというアプリもありますが、既存のアクセスなどの言語を選択してもある程度のパターンを作ってくれるそうです。後は人が仕上げるだけとされています。

3. 「うれしい・びっくり・待ち遠しい」

私は30年前に船井総研客員経営コンサルタント養成学校に通いましたが、アシスタントの若いコンサルタントから「それは一言で言えば、どうなりますか？」と突っ込まれました。整理がつかずにシドロモドロになった思い出があります。よく背景を知って欲しいと言われますが、本質はシンプルでユニークな筈なので思考を整理する事がポイントなのです。多くは概念的に塊で捉えているので、それをさらにバラシて要素に分解すると重要なポイントが浮かんで来るのです。

同じように「天地自然の理で言えばどうなりますか？」とも訊かれました。AIは『「天地自然の理」とは、松下幸之助が経営の秘訣として提唱した考え方で、「雨が降れば傘をさす」ように、当然のことを当然に行うというものです。これは、人間の知恵や才覚に頼りすぎず、自然の摂理や道理に従うことの重要性を示しています。』と回答してくれていますが、自分の考えを「自然の摂理や道理」に照らして表現するのは難しいものでした。しかし、例えば、商品会議などで「天地自然の理」で商品を選ぶという課題は有効です。「Why、〇〇？」と問いかけるのですが、船井先生の「本物の4条件」に照らしながら要素をバラシてシンプルになるまで掘り下げると「キャッチ・コピー」が自ずから浮かんで来るのです。そして、3つの視点「うれしい・びっくり・待ち遠しい」を通してチェックすると外れが少なくなるのです。

つまり、どんな結論であっても「人」に通じて共感を得て賛同で動くようになることが重要なのです。どんな「正論」であっても相手が拒否すれば虚しいだけなので、相手の心に「響いて」人を動かす為に3要素「うれしい・びっくり・待ち遠しい」のフィルターを常に頭の中においておくことが課題です。私が初めて経験したお客様では「チューブ式ポンプ」を製造販売する会社でしたが、そのポンプ用のチューブを「3プラス1方式」で実質廉価販売したのですが、他社のポンプを使っているユーザーからも注文が入り、大ヒットした企画がありました。これは「天地自然の理」で言えば、他社ユーザーの心を動かす魅力を発揮したと言えます。

4. 「シンプル・イズ・ベスト」と「仕掛け」

右掲は百均で買った「半熟たまご」をつくるグッズです。実は、私の妻は12年前に先立っており、息子たちも独立しているので言わば「おひとり様」状態です。「健康」=「運動」x「食事」x「社会」と公式化しており、「食事」は可能な限り自炊しています。しかし、64才になるまで自炊の経験がないので、ご飯は炊飯器で炊けるので問題がないが、朝はパン1枚とヨーグルトで薬を飲み、喫茶店でモーニングを頂き野菜類などを摂取し、昼は「うどん」や「そば」の麺類で時短料理とバナナで栄養プラス、そして、晩は「Cook Do」のように〇〇を用意するだけで10分程で出来る物とか総菜を買って来るという具合のパターンを繰り返して来ました。



最近、スーパーで買った「お好み焼き」のセットで作ったら、意外に簡単なので自分で材料を調達して作るようになりました。この出来た時の喜びや食材を選んで味に変化をつける工夫をするようになりました。この工夫の延長線上に「ゆで卵」という課題が上がったのです。何故なら、スーパーで卵を1パック買うので10個もあり、日持ちの問題が出たのです。近所の奥様方に訊いたら「ゆで卵にしたら」と言われるのです。しかし、ビビリの私はどれ位茹でると良いか分からずでした。そんな時に百均で写真のグッズを見つけたのです。これで失敗してもグッズの所為で出来るとばかり、ようやく「ゆで卵」が出来るようになったのです。このついでに「ゆで卵をカットするグッズ」も買って楽しんでます。

つまり、「シンプル・イズ・ベスト」とは頭では分かっているのですが、笑うような話の「ゆで卵」でもグッズを見つけたので着手するようになり「コツ」が分かりハマるようになりカットするグッズまで買うようになったというストーリーです。ホンマにイメージできても経験するまでに一歩進むのに仕掛けが必要と実感しています。